

在ノルウェー日本大使館主催 日本語弁論大会 2021年3月 Naomi Yabe Magnussen

17人の参加者は17歳から60歳までと年齢も幅広く、高校生、大学生、独学で日本語を学んだ方もいらっしゃいました。参加はベルゲン、トロムソ、オスロの他と広い地域からありました。今回のレベルは大変高く感心させられました。コロナ禍の中で、デジタルのコンテストでしたがスピーチ内容も実に様々でした。

審査では、スピーチ内容はもちろん、語彙や言葉の選択、文法や発音、視聴者とのコンタクト（デジタルでは難しい）、話す速さなどにも注目しています。私も何年もこの弁論大会を見せていただいています。毎年レベルが高くなっているように思います。今回入賞しなかった方も、決してレベルが低かったのではなく本当に少しの差で各クラス3つしかない上位に入れなかっただけなので、これからも頑張って日本語と日本に関しての勉強をつづけ、また日本の人たちや日本の勉強を通じて知り合った人たちにも益々親しんでいただきたいと思っています。これからも頑張ってください。

Gruppe A (初級グループ):

1. 日本の伝統芸能歌舞伎について理解することは、容易なことではないと思いますが、ジャンマリアさんは、ご自分の興味から、歌舞伎の花道を例に観客とのコミュニケーションというものを取り上げて、大変興味深いお話をしてくださいました。これからも歌舞伎を含めて日本のことを学んでください。
2. ユヌスさんは、ご自分がノルウェーでよく日本人と間違われるという経験が、日本語を勉強することのきっかけになったのでしょうか。中央アジアの人や中東の人とは微妙な差があること、アジア人にとってとヨーロッパ人にとっては見え方が違うことなど、面白いお話でした。日本に行った後にもお話をお聞きしたいものです。
3. ライラーニさんの落語には大変驚きました。独学で日本語を学んでしかも17歳という若さで、自分で日本語で落語を作ってしまうのですから。将来さらに勉強してまた落語を聞かせていただけると嬉しいです。最年少の参加で入賞、素晴らしいですね。

Gruppe B (上級グループ):

1. シルバーナさんのご発表は、日本語のレベルも大変高いですが、内容も素晴らしく感動しました。伝統芸能を勉強するために2年も(?)一緒に他の研修生と日本で生活を、必死で太鼓の勉強をし地元の人とも真摯に関わってこられました。きっとその姿を信頼した地元の方々がシルバーナさんにお祭りを始める役を頼まれたのだと思います。地元の方々にもシルバーナさんは忘れられない存在になっていることでしょう。
2. ラッセさんは、ご自分のご興味の日本語、特に役割語についてとても興味深いお話ししてくださいました。多分、普通の日本人の人でも考えたことのないようなことではないかと思いますが、大変わかりやすく説明してくださいました。これからも更に勉強

を重ねてよい論文を書き、もっと多くの日本人にも役割語の話を聞かせてあげてください。

3. ヘニングさんの日本の交通規則についてのお話は、言われてみればもっともだと思うことですが、あまりみんなは考えていなかったことではないかと思います。ご自分は自転車を小さいころ愛用されているからこそ、気が付かれたことだと思います。環境問題を考えたとき、自転車を積極的に使える社会にするのは大切なことですので、ぜひ、ヘニングさんの日本の交通規則に関する考えを日本のたくさんの人に伝えてください。